

HSK NPO 法人「文福」ニュース

「障」ちゃん

冒頭の一言

NO.238

障ちゃん肉

もう 3 月です。早いものですねえ。そんな早い 2019 年ですが、雪が降らない冬のように。いや、でも降るときは降る…。もうどっちなのかはっきりしてほしいというのが正直なところ。もう 3 月ということで、降らないので良くね！？って思います、正直ね。

ただ、乾燥とインフルエンザが半端ないです。うちの事務所としても振り回されっぱなし感は否めません。皆さん、雪が降らないからといってお外へ行くのは良いですが、インフルエンザ菌にはご注意下さい。

とそんな注意喚起をしたところで、238 号スタートです。

—もくじ—

冒頭の一言 … 1	もちつき報告 … 2-3	ふたたび 八木勝自 … 4-5
アルバイト … 6-7	Penko … 8	新正職員挨拶 … 9
運営会議報告 … 10	今後の予定 … 11	ありがとうコーナー … 12

準備面から色々大変な今回ではありましたが、無事にわいわいがやがやと楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。

今年は、地域の人達に声をかけることができなかったので、来年以降、参加してもらえよう働きかけていきたいと思います。

前日の準備や当日の雪かき・準備やお餅を丸めたりなどの協力をして頂き、餅つきを楽しみにきて下さった皆様ありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。



ふたたび「害」と「がい」そして「碍」へ

NPO法人文福理事長 八木勝自

北日本新聞 2019/2/6 (水) しょう がい

公文書に「障碍」使用

兵庫県宝塚市が障害者政策などに関する公文書に「障碍」の表記を使う方針を決めたことが、市関係者への取材で分かった。市によると、常用漢字表にない「碍」の文字を公的に使用する自治体は全国初とみられ、4月から運用を始める。

一般的に法律や公文書で使う漢字は、常用漢字表が基準となっている。宝塚市もこれまで条例の条文では常用漢字表にある「害」を使用してきた。一方で「この文字は障害のある人に問題があるかのような否定的なイメージがある」として、市のホームページや広報資料では「障がい」と平仮名書きにして使い分けてきた。

専門家によると「碍」の文字には「岩が旅路を妨げる」の意味が込められており、「障碍」と表記すればハンディキャップのある人は行く手が阻まれているとする実

兵庫県宝塚市 全国初 4月から運用

態に即したニュアンスに近くなる。市の案では、条例も含めた全ての表記を「障碍」に統一する。読みにくいため、定着するまではルビを振るといふ。

市幹部は取材に「障害者団体からもおおよそ理解を得られた。平仮名と使い分けるのは分かりづらく、正しい由来の漢字を使うべきだ。国にも変更を促すには、まず自治体が事例を示す必要がある」としている。

ハンディキャップのある人のスポーツ参加を促進しようと、衆院文部科学委員会が昨年5月、常用漢字表に「碍」を追加するよう政府に検討を求める決議をした。文化庁の文化審議会国語分科会が検討に着手し、昨年11月に「地方公共団体や民間が『碍』を使うことを妨げるものではなく、それぞれを考えに基づいた表記が可能」とする見解を示した。

上記の新聞記事を見て下さい。この記事は地元の北日本新聞の2019年2月6日の25面に載っていたもので、今年の4月から兵庫県宝塚市の公文書をこれまでの「障害者」ではなく、これからは「障碍者」にするそうです。何年か前に「障」ちゃんニュースの紙面でも障害者をどう表すかということで議論や問題になっていたと思います。

私は当時、この新しい宝塚市が採用しようとしている「碍」のことは知っていました。この「碍」は脳性マヒ者の団体である「東京青い芝の会」を中心として関東の障害者団体がよく使っている漢字です。当時「がい」と「害」の問題は、平仮名の「がい」を使う人は、障害者が他人や社会に「害」を

与えているという「医療モデル」で、当時私やこれまで使ってきた人の「害」は、社会や人々から障害者は差別や社会環境である社会の設備や制度が充実していないから「害」を被っているというような論調で「医療モデル」の漢字を嫌だという人は平仮名の「がい」を使い、社会モデルを推進したり差別を積極的に是正していきたいという人は、社会モデルの「害」を使って現在に至っています。

一方、国や文部科学省が何故漢字の「害」を使っているかという、今までこの「害」を使っていたし、常用漢字だからということだけだったのです。この関東の障害者団体などが使っている「碍」は私が当時、調べたら上記の新聞記事に載っている、「行く手の道を岩が塞いで妨げになっている」とか、「人生の行く手を妨げている」という意味だったのです。そして障害の「障」は昔の村の境の祀ってある魔物や災いから村を守っている神の祠の意味だったと思います。それで家にある「障子」の「障」は家を魔物や災いから守るという意味があるのです。

私がこの新聞を読んだ時に、新聞記事と同じ感想である、「害」と「がい」という字が入り混じっていてわかりにくいということから私も「東京青い芝の会」や関東の障害者団体などが使っているこの新しい漢字の「碍」（本当はこっちの方が古い）で統一した方がショウガイ者という意味を正確に表しているのでこの字に改めていくべきだと思っています。

それで、初めは尚更主に新しい「碍」を加えると3つで混乱してしまうと思いますが、これから私自身もこの「碍」を使っていこうと思っているし、ニュースの原稿を書いてくれる皆さんもこの「碍」を使ってもらえたらうれしいと思っています。

（今思い出したことですが、今の「障害者」は明治時代の医者や医学界から使われ出して普及したもので、世間ではちんば、びっこ、かたわ、はくちなどという今では差別語で使われなくなりましたが、それらの固有名詞で呼ばれていました。）

「なんて読むの？のスエイシです」

文福アルバイト 居石 真理

こんにちは。

新しい場所へ行くと、なかなか呼んで（読んで）もらえない居石（すえいし）です。

富山県ではおそらく一件だけの苗字で、全国的にも少ない名前のようなのです。

私は、生まれも育ちも富山市で、旧姓は「中村」です。珍しい名前に憧れていたため、結婚を機に、めでたく変わった名前の人になりました。主人の両親が佐賀県唐津市の出身で、「居石」という苗字は九州地方が発祥の可能性が高いと言われていました。

私が文福でアルバイトを始めたのは、下の子が幼稚園に入ったばかりの頃で、短い時間からのスタートでした。この春で丸6年になります。

子供と一緒に夢宙人の主催する「たぬきマス」のお手伝いに参加させてもらった時のこと、私たちは、Penkoさんと一緒にチキンナゲットの担当で、3人で大量のチキンナゲットを作りました。粉だらけになった Penkoさんと息子はすっかり意気投合で、とても楽しい思い出です。

ほかにも、親子で「文福食堂」や「もちつき」など、バタバタとご迷惑をお掛けしながらもちよくちよく参加させていただいていますが、学校や家庭だけでなく、いろいろな人たちと係わることは、人間としての土台を作っていく過程においてとても大切なことだと思っています。スタッフの皆さん、いつも温かく受け入れていただき本当にありがとうございます。

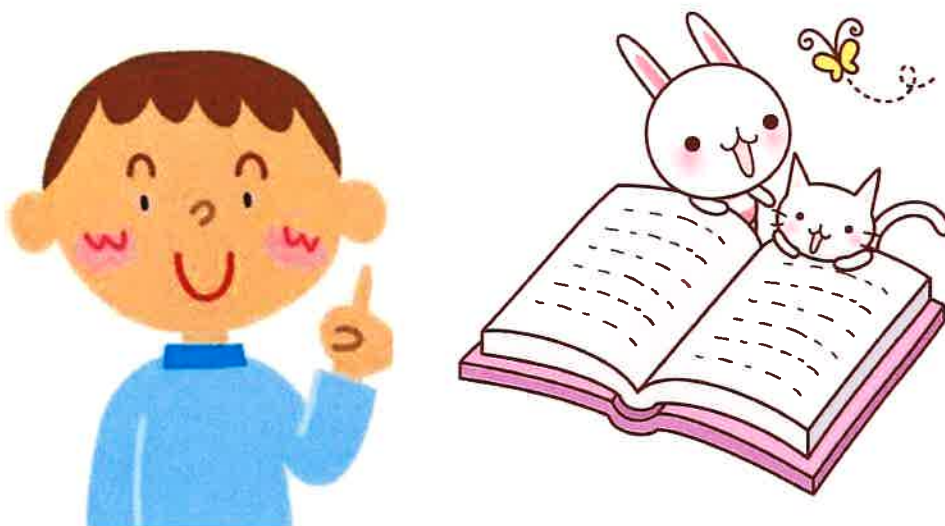
車椅子や福祉車両、色々なコミュニケーションの仕方に興味深々で、自分もアルバイトしたいと言っている息子ですが、大きくなるまでその意気込みを忘れないでネ、と願っている次第です。

介助のお仕事をさせてもらうようになってから、私自身にも変化がありました。

今までは子供に一方的に「～しなさい、してね」と声掛けすることが多かった気がします。 「どうしたいの？何がしたい？」と 本人の意思を聞くほうがしっくりくるようになってきました。子供であろうが一人の人間で、意思があること。当たり前ですが、そんなことにもアルバイトを通して気づかせてもらえました。

最近では、少しずつですが、学習会などにも参加できることもあり、「文福」の活動の本質についても学んでいけたらと思っています。

これからも、日々の体調管理に努め、がんばっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。





Penko のおひとりさま 珍道中!! (part 4 1)

昨年のクリスマスイブに「第九」の合唱でオーバードホールの舞台に立てることができました。二度目になるのですが、今回はヘルパーさんとの外出時間が増えたのでほとんど付き添ってもらえることができました。

主に楽譜めくりがほとんどでしたがとても心強くて助かりました。ヘルパーさんも多分未知の世界だったのではないかと思います。舞台に上がる道のりで、もしかして階段を使うのではないかという心配があり、主催者側に相談しました。係の方に案内してもらって従業員専用だと思いましたが、駐車場を通りエレベーターを乗り継いでスムーズに楽屋にたどり着くことができました。そして指揮者の方がイケメンでなおさらやる気が出ました。

本番前のトイレの帰りに、あるテレビ局につかまりインタビューを受けました。

ヘルパーさんや指導して下さった先生方、同じ団員のおば様方とお話しながら本番まで過ごしました。先生方は3人おられまして、まじめそうな男の先生と気さくな女の先生と山男風の先生がいて、山男風の先生が最高におもしろかったです。

舞台上で指揮者とオーケストラと一緒にになったとき、自分がゴジラになって火を噴いて暴れたかのような感覚になり、興奮しました。舞台は暑かったです。少々間違えましたが最後までドイツ語で歌えることができました。家族や文福スタッフの方も聞きに来て下さり「感動したよ」という感想をもらいました。

終了後、年末年始は熱を出して一週間寝込んでしまうという展開となりました。

練習や本番で付き添っていただいた2人のヘルパーさんに感謝いたします。ありがとうございました。

話は変わり、前回宣言していた「ジブリの大博覧会」を見に行ってきました。大きいトトロがお出迎え、驚いて車いすごとのけぞりました。「ねこバス」があり、中に入れました。行き先が「とやま」になっていておもしろかったです。

「よろしくお願いします。」

文福スタッフ 栗島 克幸

1月から正職員になることになった、栗島克幸です。よろしくお願ひします。

文福にアルバイトから入ってから2年目ですが、まだまだな部分も多いので、日々頑張っています。

編集担当の方から今年の抱負を書いて欲しいと言われたのですが、毎年これといった抱負は考えてこなかったもので、改めて考えると難しいですね。昨年から本格的に文福に携わるようになって、楽しいこともありました、失敗したことも数多くあり、私自身失敗したらずるずると引きずるタイプなので、ネガティブになりがちでした。なので、今年は、失敗しないようにするのが一番ですが、失敗しても次は失敗しないぞ！と、ポジティブに考えられるように心掛けたいです。

この文章が出るころにはインフルエンザはピークが過ぎているかと思われますが、その後の花粉の季節が来てしまいます。花粉症の自分は今もうしばらくマスクが手放せないようです。マスクをしながらうろついているかもしれませんが、よろしくお願ひします。



運営会議報告 2019. 1. 22現在

○各部からの報告

◆学習会

11月の講演会、記録が出来てきて、あと何を入れるか一回集まって決めようと思っています。できあがりは、3月を目処に。

◆障害者部会

シエンタのドアに傷がつけられていた。異常があった場合は車の担当者に知らせてください。

ドライブレコーダーの取付けを開始しました。

JR西日本への2回目の要請文が1月に届きましたが、中身が同じでこれ以上の発展がないということで、少し時間をおこうということになりました。

◆介助・介護派遣事業部

男性アルバイト1名が1月から正職員に採用となり、挨拶がありました。

◆レクリエーション部会

1月26日に、餅つきを予定しています。準備等協力よろしくお願い致します。

◆障ちゃんニュース発行部

1月27日印刷で1月29日発送。視覚障害者の方のメール配信のチラシの確認

◆まっち発行部

原稿募集中です。テーマは「時間」3月末締め切りで4月発行の予定。

○その他

車について、秋から会議などでも話し合い検討した結果、トヨタのヴォクシーを購入する事に決定。派遣が担当する。

ドライブレコーダーの取付けは担当者の時間がとれず、行ける人で行く。

来年度の総会は、6月15日土曜日サンシップとやま701号室で行います。午後からの記念講演で東京の澤則雄さんを招いて、津久井やまゆり園の殺傷事件のDVDを見て、感想とかを話し合ったら良いのではないかという提案があります。テーマなど事詳細は部会で話し合う。

○次回運営会議 2月19日(火)です。

報告者 森田



◆今後の予定◆

このコーナーでは、文福と他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願いします。

- ◎ **医療的ケアのいる人たちの思いとそれを実現するための地域支援づくり**
第2回 テーマ「医療的ケアのいる人たちの思いとそれを実現するための地域支援づくり」
日 時 3月23日〈土〉13:00～15:30
場 所 サンシップとやま701号室（富山市安住町5-21）
参加費 無料
主催・お問い合わせ NPO法人 自立生活支援センター富山
TEL (076) 444-3753

 - ◎ **ロービジョンケア講演会**（視覚に障害のある方に対する講習です）
日 時 3月31日〈日〉10:00～16:00
場 所 富山県民会館3階301・302・304号室
（富山市新総曲輪4番18号）
 - ・展示&相談会 10:00～16:00
日常生活用具給付対象器具・補装具等の展示
音声パソコン・スカイプ（インターネット電話）体験
盲ろうコミュニケーション体験 サピエ図書館体験など
「サピエ」とは、視覚障害者を始め、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データなどで提供するネットワークです。
 - ・講演会 10:00～12:00
演題「視覚障害をもつ児のロービジョンケアと
新しい視覚障害認定基準の概要」
講師 石井 雅子先生 新潟医療福祉大学 医学技術学部
視機能科学科
 - ・同時開催 見えない・見えにくい人のための視覚障害便利グッズ
展示&相談会
- お問い合わせ 視覚障害者ITサポートとやま（Bitsとやま）
TEL 090-2378-6944（担当 入江さん）

ありがとうコーナー



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後よろしくお願ひします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

もうすぐ3月、この月は一年で一番忙しいのではないかと思います。官公庁や会社は移動があり、学校では卒業式がありますね。別れの月でもあるのです。でも、一日一日と、春に近づいて来ています。新しい出会いに向かっていきましょう。

一九九四年八月四日第三種郵便物承認
HSK 毎月一二回(一、三、五、八、一〇、一三、一五、一八、二十、二三、二五、二八日)発行

***新規会員・継続会員**

大上 峻史さま

カンパ

河上 千鶴子さま

物品提供

高島 ヒサ子さま 升谷 千春さま 田畑 亜矢さま 下伏 玲子さま
山想会 さま 桜井 裕美子さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉312

編集人：特定非営利活動法人 ^{ぶんぷく} 文福

〒930-0887 富山市五福 3734-3
e-mail:bunpuku@arrow.ocn.ne.jp
HP: http://bunpuku.org/

TEL/FAX (076) 441-6106

定価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。